

第1学年 国語科

1 学年の目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容及び内容の取り扱い

知 識 及 び 技 能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。 イ 小学校学習指導要領2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。 オ 比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。	
	(2) 情報の扱い方に関する事項 ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。 イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。	
	(3) 我が国の言語文化に関する事項 ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。 イ 古典には様々な種類の作品があることを知ること。 ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。 エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。 オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。	
思 考 力 、	A 話 す こ と ・	ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 イ 自分の考えや根拠が明確となるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。 ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

判 断 力 、 表 現 力 等	聞くこと	エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。 オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。
	B書くこと	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。 イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。 ウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。 エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。 オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。
	C読むこと	ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。 イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。 ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。 エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。

＜知識及び技能＞

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 伝統技能を中心とした音声の働き、音節の基本的な構造や、アクセント、イントネーション、プロミネンスなどの音声的特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることを理解させる。
- 漢字一字一字の音訓を理解し、語句として話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことが求められる。
- 動詞や形容詞、形容動詞、名詞、副詞など様々な語句について取り上げ、語句の量を増すことを求め、その際、話や文章の中でどのように使用されているか、自分が理解したり表現したりするときどのように用いればよいかについて考えることが重要である。
- それぞれの品詞が文のどのような成分になるかなどや、指示する語句や接続する語句は、話や文章を構成する上で大切な役割を果たすことを理解させる。
- 小学校での学習を踏まえ、中学校では、それぞれの表現の技法が「比喩」や「反復」などの総称で呼ばれていることと結び付けて、その意味や用法とともに理解し、話や文章の中で使うことを求めている。

② 情報の扱い方に関する事項

- 物事を筋道立てて理解したり表現したりするためには、原因と結果の関係を把握することや、他者の意見を理解したり自分の意見を述べたりする際には、意見を支える根拠を明らかにすることが重要になる。
- 材料を集めて整理したり、構成を検討したりすることに関する指導事項や、構造と内容を把握し、精査・解釈することに関する事項との関連を図ることが考えられる。

③ 我が国の言語文化に関する事項

- 小学校における読み聞かせや音読、暗唱などによる伝統的な言語文化に関する学習を踏まえ、古文や漢文を音読し、古典の世界に親しませる。
- 小学校から親しんできた様々な古典の作品と能、狂言、歌舞伎、古典落語などの古典芸

能とを結び付けることで、古典の世界についての新たな興味・関心を喚起し、古典に親しませることが大切である。

- 方言の担う役割を地域による言葉の多様性の面から十分理解し、方言を尊重する気持ちを持ちながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて適切に使い分けられるようにさせる。
- 読書をすることによって、知識や情報を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えが広がったりすることを実感させる。

＜思考力、判断力、表現力等＞

① A 話すこと・聞くこと

- 何について話したり聞いたり話し合ったりするのかという事柄や対象を決め、集めた材料を観点に沿って比較、分類、関係付けなどをさせる。
- 聞き手に分かりやすく伝えるために、集めた材料や具体的な事実、自分の感じたことや考えたことなどの配列や、接続する語句や文末表現などに注意して、自分の考えやその根拠が明確になるように話を構成させる。
- うなずきや表情などの反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉え、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫させる。
- 話の内容を正確に理解するために、必要に応じて重要な情報を書き留めたり、分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを話し手に尋ねたりさせる。
- 何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの考えを結び付けて、建設的に話し合い、考えをまとめることが重要である。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。

イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。

② B 書くこと

- 日常生活から題材を見つけ、文章を書く目的を明確にし、集めた材料を、観点に沿って比較、分類、関係付けなどをさせる。
- 内容の中心としたい事柄が際立つように構成や展開を考え、接続する語句を適切に用いたり、見出しを設けたりすることにより、段落の役割を明確にさせる。
- 自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめ、明確にした根拠を文章の中に記述させる。
- 表記や語句の用法、叙述の仕方などについて確かめ、読み手の立場に立って文章を整えさせる。
- 根拠の明確さなどの観点から、読み手の助言や感想、意見や質問などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことを求めている。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動。

ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動。

③ C 読むこと

- 説明的な文章では、文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などを正確に捉えること、文章全体において中心となる内容を明らかにし、要旨を捉えることを求めている。

- 文学的な文章では、描写を基に、場面の展開や登場人物の相互関係を捉えたり、心情がどのように変化しているのかなどを把握したりすることを求めている。
- 説明的な文章の読み取りでは、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することを求めている。
- 文学的な文章の読み取りでは、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが重要である。
- 考えの進め方や登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握し、自分なりの意味付けをすることが重要である。
- 文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりし、それを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることで、自分の考えを確かなものにさせる。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。
 イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。
 ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。

3 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。